

PCI 合併症 冠動脈穿孔

Tortuous lesion に対しての PCI に際して coating guidewire による冠動脈穿孔は報告されているが、今回の症例は術後 1 週間経過して心タンポ、心不全症状を発症したものであった。

Balloon、STENT 留置による perforation であれば、造影上も perforation 部位が治療視野内の中心にあり、また、症状・経過も比較的急激であるであることが多いように考えられ、その為手技中に早期発見されるが、今回のような guidewire による perforation の場合、末梢血管よりのものとなり治療視野辺縁かもしくは視野外となることがあり、また、perforation も小さく術中・入院中に発見されないことがある可能性、また、1 週間程と時間が経過した状態でも冠動脈穿孔の可能性を考えなければならないことは勉強になりました。